

子どもたちの笑顔を守れる大人に

校長 柏原 奈保

子どもたちが育てている野菜が実をつけはじめました。オクラに、ナス、ピーマン、きゅうり、ミニトマト。子どもたちは、収穫をし、笑顔で、うれしそうに見せてくれます。毎日、毎日、水やりをし、大切に育ててきた野菜が実をつけることは、どれほどの達成感でしょう。「僕ね、ピーマン嫌いだったけど、食べてみたらおいしかった。ピーマンの葉は、ピーマンのにおいがするんだよ」と話してくれた子もいました。ナスの幹が実と同じ紫色であることを教えてくれた子もいました。様々な経験を通して、学びを広げている姿を見ることができるのは教員としてうれしいことです。

6月18日、「地域子どもの安全対策協議会」が行われました。この協議会は、学校、PTA、地域の方々、行政等が連携し、子どもたちの安全のために、年に一度話し合う場です。この協議会で検討されたことに基づき、各所で子どもたちの安心・安全な生活のために取組を行います。横浜市の他区では、通学路点検・交通安全を目的に「スクールゾーン対策協議会」として活動しているところが多いのですが、港南区では防犯活動も含めて、子どもの安全に関する様々な問題について話し合い、安全対策を推進することを目的としています。本校では、PTA、子ども会会長、地域の方々、学校教職員が連携し、年間を通して活動しています。長期休業明けの集団登校指導や交通安全教室、「防犯寺子屋」(防犯教室)、「防犯パトロール中」と書いた防犯プレートの着用の呼びかけ、スクールゾーンの点検や登下校時の見守り等も、活動の一環です。

今年度は、例年PTAが中心になって行っているスクールゾーンの点検を、保護者の皆さまにも広く呼び掛け、危険個所の洗い出しを行いました。危険個所について路面表示の補修や、速度規制など、どのようにしたら改善できるかを検討し、要望事項をまとめ、港南区役所や港南警察署、港南土木事務所の方に要望を出し、回答をいただきます。各町内会の子ども会会長に加え、町内会・町会・自治会の会長にもご参加いただきました。各会長の皆さまからは、要望事項以外にも、日常危険に感じている個所についてのお話いただき、行政の方々と話し合うことができました。南台小の学区は、笹下釜利谷道路と鎌倉街道に近く、抜け道として利用されている道路もあります。そのため、交通量が多く、速度を出している車もあり、危険性を感じることも多々あります。地域の方々には、町内会ごとに見守り隊を組織していただき、子どもたちの登下校を見守ってくださっています。警察の方が「区内で一番と言ってもよいくらい、地域の方の見守りが手厚い学校だ」と話されるほど、子どもたちの安全を第一に考え、日々活動していただいています。

協議会の中で、警察の方から「交通安全は、大人が見本を見せることが大切だ」とのお話がありました。「横断歩道以外のところを大人が渡っている、親が横断歩道以外のところを子どもに渡らせる、自転車に乗る際に子どもにはヘルメットをかぶらせても大人はかぶらない、というのでは見本にならない」とのことでした。このお話は、学校でも考えなくてはいけないことだと感じました。学校では、様々な機会に交通安全について、子どもたちに話をします。でも、日常的に見本になる行動がとれているのだろうか。子どもたちが毎日、笑顔で通ってこられるようにしたい、安心して出かけたり遊んだりできる学区でありたい。そのためには、周りの大人が、子どもの安全を意識し見本になる行動をとって、子どもたちを守っていきたいと感じた、今年度の協議会でした。

